

反訳書

令和2年2月1日

乙586の1 栗東芸術文化会館さくら 2012年10月4日の反訳

奥田均(43分41秒) 私はこの調査に関わっての大発見という、なるほどそうかと気づかされた点は、だとすれば部落差別というのは見なされるだというこの差別独特の特徴がある。

奥田均(44分02秒) 誤解のないように聞いていただきたい。こんなことが基準であるとするれば、私たちは全員どなたでもいつからでも部落出身者になれるんですね。こんなことが基準なら私たちは全員どなたでも部落出身者と見なされる可能性があるということになります。

奥田均(44分27秒) いやそうじゃない奥田さんうちは家系図がある、先祖代々江戸時代は武士の出身だ、そんな人がおられたとします。あ、そうですか。でもね例えば今度京都に引っ越しをされる、その時京都の同和地区のど真ん中に引っ越しされてご覧なさい。物の40、50年そこに住む、子供が生まれる、孫も生まれる親子、孫、三代も同和地区のど真ん中に住んだら世間は間違いなくあなたを部落出身者だという風に見なし始めていきますよ。

奥田均(45分04秒) 50年前からここに住んだけれど、100年前はご先祖はどこに住んどったんだろう、明治時代は、大正時代は、そんなことをいちいち斟酌して、ある人が部落出身かどうかなんていう判断は社会的に下されるわけではありません。そんな複雑怪奇な緻密な調査のもとに部落差別が発生しているわけではない。